

日本共産党 西宮市会報告

2013年10月 NO.94

発行/ 日本共産党西宮市会議員団 西宮市六湛寺町10番3号 (西宮市役所内)
Eメール: nmc30547@nishi.or.jp TEL.0798-35-3368 FAX.0798-22-7815
ホームページ http://nishinomiya.jcp giin.net/

「原発事故の早期収束を 求める意見書」が 賛成多数で可決

東京へのオリンピック招致に際し安倍首相は、福島原発事故について「状況はコントロールされている」「汚染水による影響は福島第1原発の港湾内の0.3平方キロメートルの範囲内で完全にブロックされている」などと述べました。しかし、現状は汚染水がどう漏れだしているのかわからず、制御不能に陥っており、具体的な対策もありません。

今議会に日本共産党市議団は、汚染水対策等について意見書を提案し、賛成多数で採択されました。政新会のみ反対しました。

意見書では、東京電力福島第一原発事故から2年半経過したが、事故の原因も特定されず汚染水流出は国際的な問題に広がり危機的な状況にあると強調。さらに、これまでの東京電力の対応には多くの国民が不信を抱いており東電まかせでは解決できないと指摘しています。

その上で政府に対し、非常事態という認識に立ち、汚染水対策をはじめ事故対策を抜本的に改めるとともに、事故対策について政府が責任を負う立場で、東京電力にあらゆる手立てを講じさせ、資料の全面公開、専門的英知を結集し、地下水構造の調査・解明や対策の技術的検証を行うことを求めています。



9月議会

豊かな財源は もっと市民の暮らし支援へ

約1か月におよんだ9月議会が、9月30日閉会しました。9月議会では2012年度の決算審査が行われましたが、党議員団は新年度の予算に市民要望を反映させようと奮闘しました。

7月の参院選の

ています。

結果、自公で過半数を確保した安倍政権は、社会保障の改悪や消費税増税など、あらゆる分野で暴走を始め

日本共産党西宮市会議員団は、地方自治体がこのような国の悪政を押し返し、暮らしの防波堤としての役割を果たすよう、まず求め

2012年度西宮市決算は34年連続の黒字で、一般会計の黒字額は約38億円です。この内の半分を基金に積み立てた結果、基金残高(貯金)が200億円にも

達した。そして豊かな安定した財源を市民の暮らしや福祉向上に充てるべきと主張しました。具体的には、住宅リフォーム助成制度を規模拡大して本格実施することや、改悪が取りざたされている介護保険では、現行サービス水準を後退させない取組み、国民健康保険料抑制策の継続拡充、水道料金の基本料金制見直しなど、新年度予算編成について要望を行いました。

アサヒ跡地の南北道路 市による整備は とりやめ

今議会では、アサヒビール跡地活用についても報告がありました。

市は、跡地の内、3・8haを買い取り、中央病院、中央体育館、西宮消防署、共用駐車場、多目的・防災

公園を整備するとしています。

市とアサヒビールとの間で、①市は、アサヒビールから、公共施設用地を購入する(購入費は約68・8億円)、②残りの民間開発事

業地では、住宅団地や大規模商業施設の立地は避け、周辺環境に配慮するよう引き続き協議することなどが合意されました。

また党議員団は、名神高速道路沿いに南北道路を市によって整備するという方針(土地購入も含む)に反対の立場をとっていました。が、道路については民間事業者が整備し、その後市に無償で提供されることになりました。

お気軽にご相談ください



まつお まさひろ
総務常任委員
☎73-0775



野口 あけみ
厚生常任委員
議会改革特別委員
☎34-7329



上田 さち子
監査委員
市民文教常任委員
☎35-2813



佐藤 みち子
幹事長
建設常任委員長
☎42-2856



杉山 たかのり
団長
建設常任委員
病院問題特別委員会副委員長
☎35-1682

一般質問



杉山たかのり議員

原発再稼働は仕方ない 市長を厳しく批判

UR借上げ住宅

希望者全員の 継続入居こそ解決法

一般質問にたった杉山たかのり議員は、福島汚染水問題は危機的事態、政府や東電の対応は電力会社の利益を優先し、安全という前提が崩れていることを示し、「安全を前提に再稼働はやむを得ない」というこれまでの市長の見解を、改めていただきました。

市長は、汚染水事故を「今後絶対あってはならない」とする一方で「代替エネルギーが確保出来るまでは再稼働は致し方ない」と、答弁。杉山議員は、市長の姿勢を厳しく批判しました。

次に、杉山議員はUR借上げ市営住宅問題を質問。20年の期限が迫る借上げ公営住宅で、全員の転居を求めているのは阪神淡路大震災の被災自治体の中で西宮市だけ。杉山議員は、8月13日の党議員団申し入れでの「無理に転居させることはできない」との都市局長の発言の真意をただしました。都市局長は、「万が一、借上げ期間満了時に引越しができないような個別事情がある場合は、無理に転居

していただくことはできないという趣旨で説明した。」と答弁し、はじめて転居困難者への対応について考え方を示しました。杉山議員は、「高齢者は転居するだけで認知症が発

生することもある。希望者全員の継続入居への方針転換こそ問題解決の唯一の方法だ」と主張しました。



「高齢者バス運賃割引(半額)制度」を西宮でも実施を!

西宮の「バス交通の利便性を向上させる」ことを求める質疑が、今議会行われました。

市内には阪神バスと阪急バスが運行していますが、芦屋市や尼崎市などでは70歳以上の高齢者に半額で乗車できる「バス運賃割引証」が交付され、通院や買い物、生きがいつくりの外出などの支援をしています。

西宮市では、70歳以上の高齢者に対して、「高齢者交通助成」として、5000円分の割引購入証を交付。バスだけでなく電車やタクシーの利用もできる仕組みです。

日本共産党市議団は、市内のバス路線の拡充を図るとともに、市の「高齢者交通助成」とあわせ、バス利用者がいつ乗車しても半額で利用できる、「バス運賃割引証」との選択など、「制度」の発展拡充を求めました。

市民の皆さんの意見も、ぜひお寄せください。

再生可能エネルギーの積極的導入を

市民の請願が可決

請願では、市の太陽光発電設置への補助金制度の堅持・充実や、学校や公民館・体育館等への設置を求めています。



請願が審議された厚生常任委員会では、公明党が「現在市が新エネルギー基本計画を策定中なので請願は『継続審査』を求める」としましたが、他の委員により、賛成多数で採択されました。

(公明党は結果として請願に反対)

17日の本会議では、蒼土会が「継続とすべき」として退場。委員会で賛成した蒼土会所属の委員は、本会議当日欠席しました。

「市立西宮養護学校の 新築移転を早期に検討 すべき時期」と答弁



上田さち子議員

上田さち子議員は、肢体不自由児の通う学校として、50年以上にわたり大事な役割を果たしている甲子園春

風町の市立養護学校について建替える必要性などを質問。この間、入学する児童・生徒が増え、特に高等部には市内の特別支援学級からの入学が増加しています。さらに障害は重度化し、8割を超える子どもたちは自力歩行が困難な状況。施設はこれまで増築で対応して

きましたが、雨漏りなど老朽化が進んでいることも明らかになりました。

はね橋の「開閉中止」へ動き出す

次に上田議員は、西宮浜と西波止町地先を結ぶ「はね橋」が、土・日・祝日は1日4回、ヨットの通行も

らかになりました。市教委は、「西宮養護学校の建て替えや新築移転は、早期の対応を検討する時期に来ている」と答弁しました。上田議員は「すべての子どもたちが豊かな環境で教育を受ける権利をもっている」「市の4次総の後期計画の中で新築移転を位置づけよ」と求めました。

ないのに市民の足を20分間も止めて開閉させる理不尽さを取り上げました。今回は河野市長が「歩行

者や自転車利用者が増加している」「旧港周辺整備や御前浜公園などの整備の中で、『橋』の開閉のあり方を変えよう」と考えている」と答弁しました。

